第８回伊賀市総合計画審議会　議事録

開催日時	令和２年９月１日（火）13：30～16：00
開催場所	伊賀市役所４階　庁議室
出席委員	乾　　光哉（【１号委員】社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会） 森野　廣榮（【１号委員】伊賀市環境保全市民会議） 小坂　元治（【１号委員】一般社団法人伊賀上野観光協会） 藤巻　　惠（【１号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納　圭子（【１号委員】教育行政評価委員会） 服部　保之（【１号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 岩﨑　恭彦（【３号委員】三重大学人文学部） 松山　隆治（【５号委員】　　－　　） 澤野　政子（【５号委員】　　－　　） 大北　　薫（【５号委員】　　－　　） 有馬　幸司（【５号委員】　　－　　） 町野真由美（【５号委員】　　－　　） 西口　真由（【５号委員】　　－　　）
欠席委員	
議事日程	１　開会 ２　あいさつ ３　議事録署名人の指名について ４　議事 （１）第３次計画の実施について ①グループ別協議の結果について ・8/4, 21【Ａグループ】分野１「健康・福祉」分野２「生活・環境」 分野７「計画の推進」 ・8/4, 27【Ｂグループ】分野３「産業・交流」分野４「生活基盤」 ・8/4, 18【Ｃグループ】分野５「教育・人権」分野６「文化・地域づくり」 （２）総合戦略（案）について ５　その他
議事概要	<u>１　開会</u> （事務局） ただいまから、第８回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただく。事項に入る前に、何点か確認・報告をさせていただく。 ★資料の確認 資料の確認をさせていただく。

	配付資料は、 ・事項書 ・委員名簿 ・資料１　グループ別協議結果 ・資料２　施策・基本事業一覧 ・資料３　施策概要シート ・資料４　総合戦略（案） ・資料５　人口ビジョン（案） ・参考資料　SDGs と施策の関連シート 資料の過不足があれば、事務局へお声掛けいただきたい。 ★会議及び議事録公開の確認 本日の会議も運営規程により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。 また、会議録についても公開させていただく。 ★会議成立の確認 本日は、委員の半数以上の出席をいただいているので、会議は成立している。 それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただく。 ２．あいさつ （事務局） はじめに、岩﨑会長よりあいさつをいただく。 **－会長　あいさつ－** みなさん、こんにちは。本日もよろしくお願いいたします。たいへん暑い日が続きますが、今日はみなさまにお集まりいただき、どうもありがとうございます。熱心に審議いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。 ★会議成立、会議及び議事録公開の確認 （会長） 先ほど事務局から会議の成立、また、公開について報告されたので、皆様にもご了承いただきたい。 ３．議事録署名人の指名について ★議事録署名人の指名

（会長）
議事録署名人の指名だが、本日は森野委員と町野委員にお願いしたいと思う。よろしくお願いする。

４．議事

（１）第３次計画の施策について

①グループ別協議の結果について

（会長）
①グループ別協議の結果について、事項書に記載の通り 3 グループで分野別施策の審議をいただいた。委員からの指摘事項や質問事項について、資料１の通り市の担当課から回答をいただいているので、まず、グループリーダーから協議にあたっての所感等報告をお願いする。

【Ａグループ】
Ａグループの詳細については、資料１に重要な意見を取りまとめていただいているので後ほどご覧いただきたい。私からは、大きく２点。第１次、第２次と経て、今回の基本構想の下で、いわば総仕上げに当たるのが今回の計画だが、前回から基本事業がほとんど変わっていないもの、ほぼ目標値が達成できているにもかかわらず基本事業として位置づけているものなどがいくつか見受けられる。総仕上げであること、第１次、第２次の成果を踏まえた第３次計画であることを踏まえた計画策定をしていただく必要がある、というのが１点目である。２点目、今のこととも関連するが、基本事業の選定について、もう少し慎重にご検討いただく必要があるのではないか。既に目標値が達成できているにもかかわらず基本事業に位置づけられているものや、そもそも目標を達成するための基本事業に位置づくのか疑問のあるもの、あるいは、第１次、第２次と基本事業で挙げられていて、第３次で挙がっていないときに、市民にそれがどのようなメッセージとして伝わるかということなどについても、慎重にご検討いただきながら、何を基本事業として位置づけるのか、位置づけないのかということについて、より密にご検討いただく必要があると思った。以上である。Ｂグループからお願いしたい。

【Ｂグループ】
Ｂグループは、「産業・交流の分野」、「生活基盤の分野」の施策に関してヒアリング、質疑応答を行った。今回配布されている資料２の「産業・交流の分野」、「生活基盤の分野」の記載について、政策のキーワード、基本事業ともに第３次計画ではまとめるところはまとめ、増やすところは増やし、今回の計画に当たって色々見直しをされたことが十分にうかがえる。ただ、基本事業の成果を測るための指標に関しては、従来どおりの指標を使うべきか、新しい指標にするべきか、そもそも成果がきちんと

	反映できるような、やりっぱなしに終わらない成果指標はないか、というところについて意見を申し上げており、今日配布の資料３で修正を反映していただいているものと考えている。一つ、資料１の「第３次計画素案に対する意見一覧　Ｂグループ」の内容は、８月 27 日の追加分のもので最初の８月４日分が入っていないので入れていただきたい。Ａグループ、Ｃグループにもそういうことがあるならば、そちらも共有をお願いしたい。以上である。 （事務局） 用意させていただく。 【Ｃグループ】 「教育・人権」と「文化・地域づくり」のテーマを審議させていただいたが、なかなか盛りだくさんの事項で、一つ一つを丁寧に深めて議論する余地がなかった。意見一覧にもあるが、やはりこれから先を見据えた計画案ということで、先ほどＡグループからもあったが、現在のものと同じであるはずがない、というところについては、ここに「対応」とあり、考えていただくということで、よろしくお願いしたい。さらに、シティプロモーション、「伊賀市のこの『顔』でいくというコンセンサスを得るようなことを」と資料にあるが、特に立ち止まって、ここを何とかアピールしたいというところで、事務局の対応、書きぶりも含めて深めていただきたいということだった。もう一つは、私自身が学校教育から出させていただいているが、やはりこのほどの感染症、この想定外の出来事は、子どもたちに色々な意味で大きなショックを与えたように思う。そのことに対して、例えば学びに対しても、今回は想定した計画でないといけないのではないか。その辺り、一考を要するとして意見として述べさせていただいた。たくさんあった意見を集約しきれず申し訳ない。以上である。 （会長） 各グループのリーダーから報告をいただいた。グループ別協議に参加いただいた皆様からご意見等あるか。よろしいか。それでは、グループ別協議やそれを踏まえた庁内協議を受けて庁内でご検討いただいたものについて、事務局から説明をお願いする。 **①施策の概要について** （事務局） 【資料２　施策・事業の一覧・新旧対照表についての説明】 【資料３　施策概要シートについての説明】 【参考資料２　施策と SDGs との関連シートについての説明】 （会長） 事務局からの説明について、ご意見、ご質問等いただきたい。 （委員）

	SDGs の一覧表、17 もあるので、目が留まったところを見てみた。「質の高い教育をみんなに」普遍のテーマで、丸がついている部署はなるほどと見たが、「文化・地域づくり」の（28)、(29）には丸がつき（30）はつかないという判断だが、個人的には「質の高い教育」とは歴史教育もあると思う。教科だけの教育ではない。こういうものは、誰がどのように意思決定をしているのか。 （事務局） まだ今のところは、担当部局で 169 のターゲットを見て、該当しそうなところを一旦たたき台として出している状況である。 （委員） 最終的にはどのような形になるのか。 （事務局） ご意見をまたこの審議会でもいただき、庁内でも他の部局のところも見て、最終的にふさわしいところに丸がきちんとつくようにしたい。 （委員） Ｂグループで議論した部分の変わり方を資料３で確認していたのだが、確認だが、成果指標に関しては、令和元年度から令和６年度という指標の振り方で統一するということでよいか。 （事務局） データが統計どおりに令和６年度に出ないものも中にはあるので、令和５年度というものもある。 （委員） 全部Ｒ１～Ｒ６という建て付けになっていなくても構わないということか。 （事務局） 基本形は令和元年と令和６年だが、どうしてもそのときに数字が追えないものについては、５年度のものになる。 （委員） もう１点、追加で配っていただいた資料の備考欄が空欄になっている。８月 27 日の資料では、委員からの意見に対し「そのままで行く」あるいは「対応する」というやり取りが記載されていた。今回の資料３に反映されているか見たが、例えば、3-2「農業」基本事業④「地産地消の推進」、伊賀牛の飼養頭数が指標で書かれていたところについては、食育の指標に見直すと、意見一覧の備考欄で「対応」と書かれていたので、何か新しいものに変わるかと思いきやまた同じ指標になっているとか、その辺りがよく分からない。もう１点、斎苑の基本事業を動かしたという話の中で、委員からの指摘で動かしたと事務方が言ったが、委員が質問する前に、市で協議をして場所を移したという説明があったので、委員の指摘よりも前に市側で移した、という認識に改めていただきたい。以上である。 （事務局）

	混乱していて申し訳ない。今、確認している。 （会長） 短い時間で検討を進めているので難しい部分もあると思うが、各グループ別にどういう協議があり、それを受けてどう記載内容が変わっているか、当日パッと資料を見ても読み取りにくいので、資料作成で工夫していただくか、余裕を持って資料提供をしていただくか、議事運営について工夫する必要があると思う。 （事務局） 今回は、確かに申し訳ない。この審議会で分科会を開いて、三つのグループに分かれて審議していただくのと並行して、庁内でも議論し直したり、庁内で直している途中でそれぞれの部局が個別のヒアリングを受けたりしたため、整理が並行していた部分があるので、ご指摘の通り整理し切れていない。 （会長） 事項書の「５ その他」で、次回の審議日程が９月 25 日とあり、この日も総合計画全体に関して審議いただく予定ということなので、それまでに改めて資料整理をしていただき、各グループからどのような意見があって、それに対して市の対応はどうなるのか、庁内協議あるいは各グループでの意見、何を踏まえて記載がどう改められているのか、ということが分かりやすい資料を提示いただきたい。 （事務局） どのように変わったかを分かっていただけるようにと思っている。 （会長） お願いする。次回審議会に向けてのご要望、あるいは先ほどの説明に対してさらにご質問等、いかがか。 （服部委員） 事務局に質問だが、次回９月 25 日に中間案答申となるのか。 （事務局） そこまでは考えていない。全体に目を通して、もう１回整理した資料を見ていただき、概ねオーケーとなれば、次のステップに行きたい。 （会長） 元々のスケジュールでは今日が最終回のようなイメージだったが、今回の審議を踏まえ、次回また総合計画全体についてご審議いただけるということなので、そのスケジュールも見据えた上で、ご意見、ご指摘、ご要望をいただければと思っている。 （委員） SDGs は一覧化して我々の年代でも理解しやすいように工夫していただいたが、Society5.0 はあまりよく分からない。それがこの計画にどう反映するか、具体的な項目があれば、どういう検討をして盛り込んだかも含めて教えていただきたい。 （事務局） 「現状と課題」や実際に取り組む「基本事業」の Society5.0 や SDGs の観点を踏ま

	えた取り組みに直接的に書ければ良いが、今の時点で少し具体的すぎて書きづらいならば、「まち・ひと・しごと創生の視点」のところにそれぞれの施策があるので、そこに新たな「取り組みをするときに心がけるべき視点」として、コロナのことも含めて書いていけないかと以前から庁内に投げているが、なかなか出てこないので、改めてもう１回全体を見てもらってそれぞれの施策のところに投げる。 （委員） その作業も、次回の審議会から反映する形か。 （事務局） そうである。 （委員） やはり Society5.0 はよく分からない。昨日、限界集落にドローンで宅配というニュースがあった。あくまで民間業者の領域だが、行政が関わるとしたら、助成金を出す、広報を手伝うなど、住民のそういう仕組み作りに関与することになるが、これは Society4.0。5.0 とは、もっと密接な、機械と関わる社会なのか。分からない。それを皆が理解していないと、恐らく落とし込みできない。どこかでたくさん出しているとは思うが、受けていない。 （事務局） 簡単に言うと、4.0 とは、あくまでも似たような情報を仕入れ、その中でどれか選べる状況である。5.0 は機械が勝手に選んでくれる。 （委員） イメージとして、そのような感じがする。IOT とは少し違う。IOT は人間が介在する。 （事務局） 分かりやすいのは、車のナビゲーション。ボタンを押して目的地までの地図は出るが、自分で運転する。それを勝手にやってくれるのが 5.0。 （委員） そうすると、それを分野分けして、例えば自分の担当している課の中で、Society5.0 に該当する、向こう何年以内に実現するであろうものが何かということが分からなければ、政策化できないのではないか。 （事務局） そこは書いている。7-3「組織・人事」基本事業①の下から２行目、「職務の内容や責任の度合い等の特性に応じて、民間委託や AI、」RPA というのはロボットである、「RPA 等を活用し、合理的で効果的な組織運営を行う」つまり、行政の窓口などをすべてロボットにさせるということである。実用化も進んでおり、単純作業はロボットに全部してもらう。申請書の読み込みから判定まで、そういうことをロボットにさせる。 （委員） 今回の計画が来年の年次中に可能ということで、落とし込んでいるのか。 （事務局）

	できるところは入れている。 （事務局） 主に「情報化」のところで、全体のことは 7-5 に書いてあるが、ただ、何もかもこれに対応できる業務ばかりではないので、今のコロナの対応もあり、今まで遅れていた部分を取り戻す形で前向きに考えていこうと全庁に言ってはいるが、どこまで具体的にそれぞれの事業に入れられるか、細かいところは分からない。 （委員） しかし、この計画は毎年作るわけではないので、数か月で落とし込みをして最終答申まで行かなければいけないのではないのか。 （事務局） SDGs と違い、すべてに関連できるかは難しいかと思うが、可能な限り。 （事務局） 昨日プロジェクト会議で、この Society5.0、あるいは、今コロナ対策で言われているデジタルトランスフォーメーション、限定した DX への各部署での真剣な検討をお願いしたいと再度言っている。やはり、少しそこの意識と覚悟が弱いのではないかということで、全体的なニュアンスの部分でそれらをしっかり意識してほしいということを、SDGs、新しい生活様式も含め、Society5.0 を意識した、実際に市の中でも収税業務や軽自動車税業務はオートメーション化されており、簡単にすべて処理して課税までするシステムが去年から入っている所もある。行政内部の事務処理効率化の部分にしか入っていないのが残念だが、市民サービスの向上に向けてデジタルトランスフォーメーションや RPA など、ロボティックな業務をどのように入れていくかが非常に大きな課題なので、大きな課題は課題として出しつつ、今それぞれの職場でこうしていきたいということを洗い出しているので、もう少ししたら、もう少し目に見える言葉が出てくるかと期待はしている。私たちも書きぶりが弱いとは思っている。 （事務局） 実際、どれかの施策を自分が書くとすると、なかなか書きづらい。具体的なアドバイスと言われたら、私どもも辛いところがある。 （委員） 後から書けばよいのではなくて、今書かないといけない。 （事務局） そうである。 （事務局） 交通などでも、MaaS や自動運転などの研究が入ってきているので、そういった部分への取り組みを、今はまだ恐らく「具体化する」というより「検討する」、「研究する」というレベルである。 （委員） 現実味はない。

	（事務局） 　そうである。 （会長） 　他にお気づきの点などよいか。繰り返しになるが、今日初めてご覧いただいた資料なので、じっくりと読み、意見を出していただく時間が必要かと思う。次回の審議会までにご意見などあれば事務局に投げていただきたい。続いて、議事（２）「総合戦略（案）について」事務局から説明をお願いする。 **（２）総合戦略（案）について** （事務局） 　【資料４　総合戦略（案）についての説明】 　【資料５　人口ビジョン（案）についての説明】 （会長） 　では、委員から、人口ビジョン、総合戦略についての意見、質問等いただきたい。 （事務局） 　人口の分析やそれに基づいてどのような取り組みをしていくかを、総合計画、総合戦略という形で表していくが、庁内でも、その観点でというとなかなか意見が出なくて苦労している。今まで総合計画と２本立てで総合戦略があったが、総花的だとか、総合計画を少し視点を変えて書き直しているという批判もあり、それを受けて、他の自治体でも１本の計画としたほうが見やすいということでされているところも多く、伊賀市もそうしていきたいと思っているが、なかなかこの観点では意見が出づらい。 （委員） 　出生率が低く、人口が伸び悩むということだが、結構若い男性が結婚しないでいる。市として取り組んでいるところもあり、ＪＡやホテルなどもお見合いパッケージのような形でしているが、行きにくいのか、うまくかみ合わない部分がある。行政として人口減少を心配するならば、何らかの取り組みをしていかないと他任せではだめだと思う。それがまず出生率を上げ、人口増にもつながると思う。若い女性にも結婚についての夢というか、そういうものに取り組んで講演会をするなど、もう少しターゲットを絞って、結婚できる状況づくりを考えていけるように、この施策にも反映していっていただきたいと思っている。 （事務局） 　資料５「伊賀市人口ビジョン」の 16、17 ページで未婚率を男女別に分析しているが、時代を追うごとに、男女ともに結婚しないことを選ぶ方が増えているし、結婚するにしても晩婚化が進んでいる。そもそも、結婚する・しないは人生の選択なので、一人ひとりの考え方が尊重されるべきだということが大前提にあるが、単純に言うと、晩婚化が進むと出生率の低下につながることもあり、出会い、結婚も含めて子育てしや

	すい町にしていこうと思うと、そこから始めないと難しいという認識は持っている。今回、資料３の 1-6「子育て・少子化対策」に少子化対策事業として、今の話の取り組みが課題であるという認識はしており、一つは、「少子化対策」と大きなテーマを掲げ、妊娠から出産、子育ての切れ目ない支援の中で、まず、そもそも出会いの部分からサポートしなければならないのではないかということが書かれている。あと、子どもが欲しくてもなかなかできない人へのサポートとして、経済的負担が大きい不妊治療などへの助成を、若い夫婦に支援していこうということは書いているが、ここのところのサポートが弱いのが現実のところかと思う。 （委員） 　総合戦略の大体の方向性を見つけて現実的な目標設定として捉えたが、この中にはアフターコロナの時代の中で生活様式や社会的な構造自体が変わるかもしれないという政策転換の部分が、戦略的にあまり想定されていない気がする。今の人口を出生率を上げるとか死亡率を下げることはなかなか難しいと思うが、転入者を増やすことは、新しいアフターコロナの時代において可能性を秘めている気がする。昨日、パソナが 1,200 人淡路島に移転すると打ち出したのはアフターコロナ以外の何物でもない転換である。新しい人材を呼び込むことによって 10 万人都市を目指す、若者が転入すれば、出生率が上がらなくても出生数が増えていくので、そういう戦略もあるのではないか。特に、伊賀は東海地区でも住みたい田舎の４番目になり、移住者がたくさん来ている。外国人が多く住んでいるということは、それだけの仕事があることもだが、外国から来るに当たり伊賀に来ようと思う人がたくさんいるということなので、多文化共生もきちんとしている伊賀市ということで、外国人を含めた転入者を１万人でも２万人でも増やしていくという戦略を、コロナ後の新しい生活様式に合った戦略として打ち出すのも一つかと思う。慎重に考えていただいている数値だとは思うが、もっと戦略的な数値を出すというのもありではないか。 （事務局） 　自然増減は、政策を打ったからといってたちまち子どもが増えるかというとなかなか難しいと思うし、社会増減は、特に今、転出が増えていて転入が少ない状況に関しては、何か大きな政策を打てば大きく変わることがあるだろうし、今はコロナもあって全国的に個人個人の価値観も大きく変わっていく中で、田舎に住むほうが良いという考え方にシフトする人もたくさんいるだろうし、個人個人に訴えかけるような移住の支援なども必要だろうが、それで数字的に人口に影響するほどのことが起こるかというと難しいと思う。現実的には大企業を誘致する、東京に本社がある主要な企業がこちらに本社機能を移すなどの政策を打てれば一番良いかと思う。総合計画でも「産業立地」という施策もあるが、具体的な取り組みまでは書けていないので、その辺りが課題かと思う。今日いただいた意見は持ち帰るが、政策的な判断になるので事務レベルでの話ではなく、もう少し大きなところで議論していくべきことと思う。 （事務局）

	外国人住民が伊賀市は多いという現実を書くだけで今まで来ていたが、それを伊賀市の特徴として伸ばしていくかどうか、一度真剣に考える必要があると思うが、事務局から言ってもなかなか原課が響かないので、ぜひ、委員からそういうご意見を出していただけたらと思う。 （事務局） 審議会の意見を市長をはじめ幹部に聞いていただき、政策的な判断をいただこうと思っている。 （委員） 私も 50 年以上前に就職する際、伊賀に仕事がなく大阪に通っていた。ちょうど名阪ができる前で会社もなかった。名阪ができて交通の便が良くなり工場誘致ができた。現状は工場がたくさんあるので昔に比べれば働くところはあるが、JR 関西線は、６両、８両編成だったのが、今は昼間は１両、朝で２両になり、やはり色々な制限もある。立地は良く、大阪、京都、名古屋へ１時間と少しということをもっと売り出したら良いと思う。知り合いに、子どもが東京圏へ出ていって、遊ぶところがあって喜んでいたが、今はコロナで遊ぶところもなく疲れているが、こちらに帰ってきても仕事がないという方もいる。私は、7 月まで農業委員をしており、空き家バンクを利用してこちらへ住む方が結構あるので、なぜここを選ばれたかを聞くと、長野、岐阜、滋賀もあったが、ここは環境が良いから、ということであった。土地、家が安かったということもあろうかとは思うが。そういう方を大事にしていかないといけないと思う。もっと地元の魅力を知り、おもてなしをして、伊賀は住みやすいところだともっと「宣伝」という言い方はおかしいかもしれないが、していったら、もっと認知されると思う。もう一つは、市が空き家や工場に適している土地なども把握して、パソナが淡路島へ行って、なぜ伊賀でないのかと思ったし、「首都機能を畿央へ」という看板もいつの間にか消えているが、このような状態でどこにいてもリモートワークでき、住みやすいところをうまく使うということがこれから進むと思うので、そこも踏まえて考えて施策を、すぐ実現できるものではないが、それも含めて、例えばどこかの会社がここへ来る予定があると言われたら、市が「ここはどうか」と紹介できるとか、そのような対応もしたら良いのではないかと思う。 （事務局） 企業誘致について、今、公的な工業団地は、企業に伊賀市へ進出したいと言われてもまとまったところがない状況で、民間では一部あるので、民間の了解が得られれば伊賀市として紹介する手はずになっているが、なかなか需要と供給がマッチしていない状況である。観光の切り口になるか分からないが、伊賀に住んでいる者がこの町を誇らないといけないということがとても大事なポイントだと思うので、前回の計画でもそうだったが、自分たちがどのようにしてこの町を誇るかということ、あるいはそれぞれの主体がそれぞれの取り組みをするときに、主体的に取り組むことを主眼に置いて、この計画を作っていきたいと思っている。

	（委員） 住みたい伊賀市ということで、私は教育からだが、人口減のところで学齢期の子どもたちのことがあまり分からないが、子どもが生まれないということは、当然学齢期の子は少ない。今ある小、中学校は地域のコミュニティとの関係があるのでこれ以上少なくならないかと思うが、これだけ減ってくるとどうか、外国籍の児童・生徒が入ってきてくれるとしたら総数がどうかなど、色々、学校教育がどうなるかと思う。しかし、減るからを見越して予算を立てられると、当然、十分なきめ細やかな教育はできないし、IT 化のための機種も入れられないので、今、投資していただいて、「伊賀市はこんな先進的なことをしている」という魅力も一つ考えていただきたいと、このコロナのことで切に感じている。伊賀市が空調を早くから入れたことについては、本当にありがたかった。昨年度は熱中症も多く、後追いの地域もあったように思う。あのような先手の部分をぜひ考えていただきたいと、教育に特化したことではないと思うが、戦略の中に入れていただきたいと思う。 （事務局） 先ほど学校の校区再編の話にも触れたかと思うが、施策 5-4「教育環境」のところでも少しシンプルに書きすぎているとは思うが、校区再編は落ち着くかと思う。ただ、地域のコミュニティと学校は、比較的一つの小学校単位で地域が形成されているイメージなので、そこが再編されると地域コミュニティ自体が難しいということがあるのと、もう一つは、あまりにも人数が少なくて複式が増えてくると学校としてどうか、というところがある。一応今は、この計画期間中は校区再編に関しては落ち着くだろうという見方をしている。 （委員） 先ほどからの話に重なる部分があると思うが、伊賀に住みたいと思っていただける、また定住したいと思っていただけるような魅力あふれる色々な施策をしていただいて、そういう方が増えれば人口の減少も少しは食い止められるのではないかということだが、私の家の周りでは、最近たくさんアパートが建っており、そこには若い夫婦と子どもがたくさんいて、大きな会社の社員だと思うが、そういう方たちはある程度の時期が経てばまた戻ってしまう。一時的な住まいなのだが、最近、そういう人たちが、10 年位経ってお子さんが小学生位になったときに、伊賀市が住みやすく、学校も友達も良かったというので、帰らずに定着して家を建てているという話を聞く。やはりこの伊賀市が良かった、学校が良かったという、そういう魅力があって留まってくれていると思うので、この工場、会社で来ている若い人たちが帰らずに、伊賀市に定住、定着してくれるような魅力ある施策の発信をどんどんして、住んでもらえるようにすれば、少しでも減少を止められるのではないかと思う。そういう魅力があまり発信されていない気がする。私はそう思うので、お願いする。 （事務局） 以前は、社宅などの住人に対しての市のアプローチはほとんどなかった。いずれま

	た違うところへ変わられると思っていたからだが、これからは、どのような地域活動にしても、そういった方も巻き込んで、会社を通じて案内するなどもしていかなければいけないと思っている。委員がおっしゃる通りだと思う。 （事務局） 実際に人口がこれだけ減っているのに、核家族化が進み、世帯数は増えているという現象が起こっているのが現状である。 （事務局） 若い女性の委員もいるので、ぜひご意見をいただきたいのだが、先ほど見ていただいた若年女性、20 歳～39 歳の人口が伊賀市は全人口の 9.3%、名張市は 10.4%、三重県平均も大体 10.4%位である。伊賀市が特に若年女性の人口割合が低い。伊賀市の特徴として、総生産のうちの 7 割位は製造業で、女性の働く場所がしっかり確保できていないからこうなのか。何故伊賀市はこれだけ若い女性が転出していってしまうのか。女性の方に「こういうことがあれば、伊賀市は若い女性にとって住み良い町になる」という提案がもしあれば、いただけるとありがたい。 （委員） 個人的な意見になるかもしれないが、まず私自身が逆に名張から伊賀市に来た人間で、なぜ名張から伊賀に来たかというと、女性から見ると、名張は建物などぱっと見て分かる魅力が多いが、実際中を見てみると、伊賀市はやはり歴史とか、個人的には支援センターとか、そういうもっと深いところに魅力がある。名張の人に「伊賀市の子育て支援センターはすごい」と言われるが、伊賀市が子育てしやすいということは本当に一部の人しか知らないので、そういうところをもう少し上手く発信できたら、市がやっていることも、全体としてもすごいと分かるのではないかと思っている。 （事務局） 若い女性に、そのような情報を発信する方法として、何か良い方法はあるか。 （西口委員） やはり SNS である。 （事務局） SNS の強化ということか。 （委員） そうである。支援センターでも色々されているが、それが広報もしくはホームページのみで配信ということが非常にもったいない。１回行けば、「すごいな」と皆思う。それをご存じの方はこの中でどの位いるのか。若い世代でも同じように知らない人ばかりなので、SNS などで「今日やること」などを軽い感じで見られると良いかと思う。 （委員） 私は文化都市協会でプラン作りをしていて、市役所の各課長と話をさせていただいている。私たちは文化振興のプランを作るお手伝いということで、文化の切り口で話をする。実はヒアリングの前にアンケートも取ったが、ほとんど回答がなかった。私

	どもがしている健康推進は文化と関係がないという概念があるのだろう。しかし話をすると、どんどんアイデアが出る。話をして初めて見えてくるものが随分ある。この間も、子ども未来塾だったか子育て支援の関係で、色々な課が横断して懐妊から母子手帳の期間まで位のプランがあり、それを見ると「この町は随分子どもに優しい町だ」と直感的に思うのだが、市役所のどこへ行ってもそのアイコンもなければメッセージも発していない。この三つの基本目標にそれぞれアイコンとメッセージを持った「〇〇の町」が作れると、僕は思う。そして、今ＳＮＳ。発信することはタダ。限定的なツールであるため、いつまでも頼れないが、行政がその領域に踏み込むことは良いと思うし、いずれにしても、一つのテーマが見えるような形で映像化したり、パネルがあったり、冊子を多くの市民が知っていて「あれ見たよ。子どもが便利になったね」と、おじいちゃん、おばあちゃんが言えるようなものを作っていってはどうか。課でプランを作るときに、基本構想の中に既存の事業が恐らく網羅されていると思うが、その中でディスカッションして、先ほど言ったように、そちらの課でできることは何か、うちとしてはこういう思いがあるからこことここの課をくっつけたら何ができるか、ということまで含めてコーディネートするぐらいの権限をこちらの課が持って絵を描く。行政として今までと手法が違うかもしれないが、余程の特効薬がない限りこの戦略は絵に描いた餅に終わる気がしてならないので、特に若い方の目に触れる政策を立案するには、ビジュアルであったりアイデアであったりと、それぞれの課で考えている色々なことを寄せたら何か良いものが生まれる気がする。 （委員） コロナ支援事業で今年度 GIGA スクール構想がある。将来、子どもたちに１人１台タブレットが配られる時代になる中で、計画には反映されていない。教職員のスキルアップ、リテラシーの向上が必要になってくるので、そこはしっかり学校教育の計画に入れていかないといけない。Society5.0 やデジタルトランスフォーメーションと言う割には反映されていないが、来年度から実際始まるので、ぜひ入れてはと思うが、いかがか。 （事務局） 5-3「学校教育」に、「子どもたちが、未来に夢や希望を持てる」とあるが、ここに今仰っていただいた部分が漏れているので、書くように伝えてはいる。 （事務局） Ｃグループでも話が出たが、学校教育や生涯学習を考えるときに、コロナ感染症そのものに対して、また、それを踏まえた生活様式も絶対にやり方が変わるはずなので、その辺りのことを計画に書いていかないといけないのではないかというご指摘をいただいていたかと思う。当局では、「まち・ひと・しごと創生」の視点で書けたら良いかと、今、教育委員会に投げているところである。 （委員） 国からの補助もあるか。

	（事務局） もちろんである。地方創生の取り組みの中に、今までは、人口減少の対策を練ることに対して国の補助が出たが、コロナの対策やSDGsの視点、Society5.0などを含め、いわゆる地方創生の枠組みの中の取り組みに組み入れられたので、今回の計画の「誇れる・選ばれる視点」を「まち・ひと・しごと創生の視点」と変えて、総合計画に直接結びつくように書いて行くということで記載を変えたので、今の「新たな視点」という話は、地方創生全般ともイコールになる。 （委員） 子育て世代は子どもの健康を気にするので、やはり食の安全が大事かと思う。学校の給食制度は分からないが、良いものを提供していたら魅力的だと思う。ウィズコロナの時代に食の不安もある中で、農地が多くあるので、できると思う。私の周りにもお米がおいしいから、愛農高校があるからと移住してきた人もいるし、伊賀名張は食に関する意識が高いと思うので、魅力として発信すれば、来る人は来るのではないか。 （事務局） この計画の中でもキーワードといえば「食育」や「地産地消」となり、当然盛り込むべきという話は出ている。それをどの切り口で書いていくかというときに、総合計画は施策ごとの書き方なので、例えば、産業分野の農林のところで地産地消の角度から食育をどうしていくか、「地元の食材を愛そう」ということにも取り組まなければいけないし、学校給食で地域の食べ物を知ることも必要だと言っているし、そもそも、健康づくりのところでも食育が大切だと言っている。従前の施策は組織ありきで縦割りなので、新たな課題が出たときにどう書くかが悩ましく、今回のコロナでも「感染症」というキーワードに対して、危機管理部門にどう書くか、そもそもの感染症対策の普段の啓発をどう書くか、情報化のこと、それぞれの施策にどう書くかが難しい。ただ、当然食育、特に伊賀のおいしい食材をPRすることが大切だと思うので、各分野に頑張って書いてもらうようにしたいと思っている。 （委員） 私たちは消防団で啓発活動などをしている。今年はコロナの影響で中止になったが、毎年全国大会が行われ何千人かが集まる。そこに必ずパネルを作って、伊賀市消防団として伊賀市のPRもしており、観光政策課からパンフレットなどをもらって置くが、突っ込んで聞かれてもPRがなかなか上手くできない。日頃考えていないので、日常的に住民としてPRできる場、各種団体でもあれば参加していきたいとは思っているので、よろしくお願いしたい。 （事務局） 職員も同じで、自分のところのイベントをしに外に行くときは、そのことしか考えておらずよく怒られるが、せっかくの機会にPRは当然のことなので、他の取り組みのPRも大事だし、連携してできるならやるべきだとも言われている。先ほどのキーワードの話で、例えば、Ｂグループの草刈りというテーマの切り口で見たときに、公共施

	設、道路、空き家・空き地の問題など色々な部局にまたがっているので、そのキーワードに対してどう対応するかが大きな課題で、外の人が見て草ぼうぼうの町では住みたくないだろうから、そういった目線からも大事だというご指摘も受けたことを思い出した。 （委員） 草刈りをしなければいけないのだから、どういう手法でするかという議論にまでは至っていないのか。 （事務局） 結局、空き地と空き家でも担当課が違うので書きぶりもまだ中途半端である。一旦課題として持ち帰り、どういう形で書き込めるか検討させてほしいとは言ったのだが、なかなか主体的に考える場所がない。 （委員） 考え方としては、一つの課の仕事ではなく伊賀市の事業として事業化し、そこに各課がぶら下がるという考えで行動日を設け、各課からスタッフが出て、市民ボランティアを募って、という構築の仕方もある。単課で考えたら限界があるだろうと思う。 （事務局） 横から横へ、キーワードごとに見ていくことも大事だと思う。 （会長） 地方創生は地域の皆さんから行政が刺激をいただくフォーラムだと思うので、もっとたくさん意見をいただく場を設けると良いと思う。 （事務局） 本当にショッキングな数値が出ていて、推計では予想以上に人口の減りが激しい。かつて 10 万人だった人口が３万人台までに落ち込むとは想像もできないが、それだけ危機的な状況にあることを皆に認識してもらえるようにしたいと思う。 （委員） 国調で、2010 と 2015 の減り方が大きくないか。その前の５年間が 3,000 人、今度は 7,000 人前後、何か要因があるのか。 （事務局） ４ページに 1960 年代からの図があり、伊賀市はもっと前から、ほぼ 10 万人、9 万人辺りを戦後、戦前も含めてと記憶しているが、維持している。高度経済成長期や第２次ベビーブームなど、人口構造が大きく変動している時代でも、なかなか特殊であるがずっと横ばいである。それが平成 22 年ぐらいを境に一気に減り出し、そこからは加速度的である。ただ、この社人研の推計は過去５年間位をベースに出しているので、が大きく下がったのを見ながらなので、そこまで行くかは次の国勢調査でどうなるかだが。 （委員） 一過性のデータでの推測が入っている可能性がある。

	（事務局） ただ、平成 27 年のデータは実数なので、非常に減っている。 （委員） 要因は。 （事務局） 一つの要因としては、資料７ページ。その当時、出生数・死亡の差と転入・転出の差を合わせて約 1,000 人減っていた。それが５年間続いたら 5,000 人減るが、それよりもう少し大きく、加納副会長ならばご存じかもしれないが、子どもの数が急激に減った時期がちょうど 2000 年から 2015 年の間ぐらいに入っていないか。 （委員） 校区再編を言い出したのが平成 14 年位で、それからもうみるみる。そして高校がなくなっていき、再編、再編で。あの 10 年一気だった。 （事務局） 20 年ぐらい前から分かっていたことだと思う。若年の、いわゆる 20 代、30 代が減ると、おのずと子どもは減る。それはもう 20 代、30 代が生まれたときの人数なので、20 年、30 年前にこうなるであろうことは、分析すれば分かっていたことだと思う。 （会長） 本日の議事は以上だが、何か委員から全体を通してご意見、ご要望はあるか。 （委員） 総合戦略の 12 ページからの取り組み一覧が総合計画と連動しているという説明があったが、この戦略の 14、15 ページと、本文のところにも総合計画と連動して目標値が出ているので、総合計画の指標とも一致していたほうが分かりやすいのではないか。計画のほうで取ってつけたような目標数値があるので、それならば数を少なくしてでもこちらの戦略の目標数値と合わせたほうが良いのではないか。 （事務局） 今、言っているのは、13、14 ページに載っている数値の話か。 （委員） 14、15 ページ。 （事務局） タイトルにも「第 1 期」と書いてあるが、今の「まち・ひと・しごと総合戦略」なので、参考指標である。指標がありすぎると役所の中でもどの数字を追いかけているのか分からなくなるので整理したいということで、今回「まち・ひと・しごと総合戦略」の中では、基本目標ごとに目標を２個ずつ置く。そうすれば、総合戦略としては８本ぐらいの目標で済む。総合計画に載っている基本事業ごとの目標よりもう少し大きいものをここでは置くイメージで、８個新たに設定している。事業に関してはほぼこの事業をリンクさせてあるので、それぞれの基本事業に取り組むときはそれぞれの指標をもってやるということで行けるかと思う。そういう整理でいきたいと思う。

	（委員） まだ１期の目標設定のほうが腹に落ちやすい。総合計画の指標自体が分かりにくすぎるので、できれば今回の四つの基本目標というのも。 （事務局） 大きすぎるか。 （委員） 大きすぎる。せめて 14、15 ページぐらいの目標設定を計画とリンクさせたほうが、どちらを進めていても分かりやすい。戦略としても達成率が分かるし、総合計画としても「ここまで来た」ということが分かるので、その辺りの精査をもう少ししたほうが良い。 （事務局） ここで使ってきた指標の中には、新たに作る総合計画の各基本事業の指標に使っても良いものもあるかもしれない。 （委員） そうだと思う。 （事務局） この指標を絞り出すのに、他の自治体のものも参考にしても良いはずだし、過去のものも参考にするものはあるのだが、１から考えようとするので無理が出てくる。今のご意見のように、この中で良いものもあるだろうし、上手くミックスして分かりやすくしたい。ただ、今仰ったように、総合戦略でもたくさん指標を持ちだすと、どれがどの指標だったか分からなくなり、目標に向かって仕事ができない状況が生まれてもいけないので、それぞれの取り組みをするときは、「目標はこれ」ということを皆が明確に持ちたいということも思っている。 （会長） 横串の通し方に関しては私も思うところがある。12、13 ページに取り組み一覧があり、総合計画にぶら下がっているすべての事業を基本目標の１～４のいずれかにぶら下げようとしていると思うのだが、ここまでする必要があるかということが一つ。これだと濃淡があると思う。具体的に言うと、基本目標１と４とでは、かなり重複する事業が挙がっているが、１で重点が置かれる事業と４で重点が置かれる事業の濃淡があるはずで、このぶら下げ方だとそういうことが分かりにくいところがある。乾委員のご指摘と併せて横串の通し方を少し。 （事務局） 第１期の総合戦略は、すべての基本事業に当てはめていなかった。今回は一度当てはめてみる案だったので、並行して検討させていただく。 （委員） 今、委員長が言われた 12、13 ページはまだ案か。 （事務局）

	現時点では案である。 （委員） では意見がある。そもそも基本目標が１～４まであるが、基本目標一つに対して、一つの課だけが取り組むのではないし、その逆の視点で、自分の課がしている仕事はここととここに作用する、というものでなければ事業は面白くないと思う。そうなった場合に、再掲になるが、１に出てきたものが２にもダブっている部分は、どんどん積極的に出していく。文化振興プランの先進市の書き方がそうである。そうすると原課も非常に意識が高まり、自分たちがそれだけの役割の仕事をしているという意識づけになるようである。そういう工夫も必要ではないか。テーマがテーマだが。そのときはその課がきちんとヒアリングをして、「あなたの政策目的はこの中のどれに適っているか」ということを真剣に考えていただくというお話はしておいたほうが良い。安直には書けないと思うのだが。 （事務局） あくまでも、この取り組みをするときの取りまとめ課のイメージで良いと思う。 （委員） 担当課はどこかということは、実施している効果まで帰属した場合は、またがる可能性があり、それが横断的なものの糸口になる部分もあると思うので、そういった記述例に倣っていくことはもちろん大事かと思う。 （会長） さらに全体を通して意見はあるか。よいか。では、事務局から事務連絡はあるか。 <u>５．その他</u> （事務局） ・次回審議会の予定 ・行政経営報告書の差し替えについて （会長） 他によろしいか。次回の審議会まで時間の余裕があり、本日ご覧いただいた資料で読み切れなかった部分もあると思うので、また、ご意見、ご感想等、事務局にお伝えいただければ検討させていただくのでよろしくお願いしたい。では、事務局に進行をお返しする。 <u>閉　会</u> （事務局） それでは、本日の審議会を終了させていただく。